

海外生活 エッセー

シンガポール事務所

シンガポールの街中で出会う風水

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 大澤 知澄 (長野県派遣)

→ 意識される風水

シンガポールの街を歩くと、意匠を凝らした建築物が目を楽しませてくれます。それらの中には、風水が強く意識されたものがたくさんあります。シンガポールに赴任してくるまで、日本で風水を意識したことはありませんでしたが、中華系の人口が7割を超えるシンガポールでは、中国で発祥した風水が至る所で意識されています。本稿ではそのような建物の一部をご紹介します。

→ 数字の持つ意味と建築物への活用

風水では特に数字の2と8が好まれ、数字が示す風水的な意味については、諸説ありますが、一般的に2は調和、8は循環を表すとされます。2と8を意識した建築物は、例えば、職場のすぐそばにあるリパブリックプラザ（黒川紀章氏が設計）やUOBプラザ（丹下健三氏が設計）があります。2つの建物は高さがどちらも280メートルであり、平面が8角形に設計されています。

また、1（物事の始まり）と3（成長）も風水的に



UOB プラザ

良い数字とされ、コンラッド・センテニアル・シンガポールの壁面には大きく「13」がかたどられています。OCBCセンター（貝聿銘氏が設計）は壁面から突きだした部分が13階ずつに分けられています。



壁面に大きく「13」



13階ずつ分けられている

マリーナベイサンズやシンガポールフライヤー（巨大観覧車）といったシンガポールのランドマーク的な建築にも風水の考え方が取り入れられているようですので、興味のある方は是非調べてみてください。

→ 建築物以外への風水の活用

先に挙げた風水的に良い数字は、建築物以外にも、ビルの開設日やイベントの実施日に選ばれたり、シンガポールで目にする車のナンバーにも多く用いられていたりします。

シンガポールに来られた際には、何気なく目にする風景に、風水の知見も合わせて見ると、更に楽しめるかもしれません。

なお、本稿の執筆にあたっては、JTB風水特別講座（講師：大貫耀子氏）でご教授いただいた内容をもとに、記載しています。